

社協の福祉教育支援事業のご紹介

◆福祉教育のすすめ方やプログラムなどの提案

学校のカリキュラムにあわせて、福祉教育の取り組みの相談に応じます。

1 導入

何について学ぶか、学びの興味や関心を明確にしましょう。

福祉は特別なものではなく身近なものであることに気づくように、難しい題材よりも身近なところから関心のある題材を取り上げたほうが取り組みやすいです。

- <例> 「自分たちの町を調べよう」
「目が見えないってどんなこと？」
「聞こえないってどんなこと？」
「車いすってどんな人がつかうの？」
「募金ってなに？」
「あの施設ってどんな施設？」

2 出会い・交流・体験

- <例> 「移動するときはどうしてるのかな？」
「地域の事業に参加しよう」
「町に住む、高齢者と一緒に給食タイム」
「町に住む、高齢者と昔遊び」

3 活動の振り返り・共有

- <例> 自分との「違い」や「同じ」はどんなところだろう
子どもたちが感じてきたこと、考えたことを報告し合う
自分たちにできることはないか、みんなで意見を出し合う
外に向けて発表する

4 発展・次の行動へ

- <例> 「〇〇について、もっと調べてみよう！」
「ボランティア活動に参加してみよう！」

教科の応用としても！

国語：読み聞かせの会・地域の昔話を語る人の紹介。点字にふれる授業。

社会：伝統行事や外国の文化を話す人の紹介。

生活：まち探検やバリアフリー点検と関連づけた授業。

家庭：郷土料理や外国の料理を教えてくれる人の紹介。

道徳：高齢者との交流、公園や公共物の清掃活動と関連づけた授業。

算数：指文字にふれる授業。

など

※学校だけで、先生だけで抱え込まず、ぜひ社協にご相談ください。